

令和 3 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子白鳳高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	多様な背景を持つ生徒に「学ぶ意欲」を育て、「優しさと感謝」の心を育み、「自分も役に立ちたい」と前向きに共生する資質と自立のための能力・態度を育む。	今年度の 重点目標	1 学ぶ意欲の喚起・育成 2 心豊かに他と共生する態度の育成 3 「ふるさと」とつながる心の育成 4 社会的な自立に向けた支援	

年 度 当 初					評 価 結 果 (10) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学ぶ意欲の喚起・育成	○授業のユニバーサルデザイン化	○授業を大切にする態度を育てることが必要である。	○学習に集中し、意欲的に授業に参加することができる。	○全ての教員によるユニバーサルデザイン・合理的配慮の観点を取り入れた授業の展開の標準化 ○生徒情報の共有による授業への還元 ○支援が必要な生徒への個別指導	○ユニバーサルデザイン・合理的配慮についての説明を転入職員に行った。 ○支援員を配置し、個別指導を充実させている。 ○授業の出席率は、定時制1年次84%、2年次80.6%であり近年改善傾向にある。	B	○伝え方を工夫するなど、ユニバーサルデザイン・合理的配慮に基づいた授業をさらに推進する。 ○さらに情報を共有し、個別の支援・声かけを継続し、授業への動機付けを行う。
	○ICT活用教育の推進	○ICT化の進展と感染予防対策の点で、情報活用能力の育成が必要である。	○ICTの活用ができる。	○ICT活用のための教員研修と環境整備 ○各教科でのICT活用の推進 ○NHK高校講座でのICT活用 ○生徒個人端末の積極的な活用	○タブレットは昨年に引き続き多くの先生が授業等で利用されている。 ○授業アンケートをGoogle Classroomで行うなど、授業での活用を促進している。 ○全職員対象にオンライン授業の研修会を行った。	B	○iPadを含めICT機器の活用を引き続き推進し、ICT機器のスキルアップを図る。 ○研修会で学んだスキルを生かし、さらなるGoogle Classroomの利用を促進する。
	○生徒理解と環境整備	○生徒のおかれた状況を理解し、学ぶ意欲を高める必要がある。	○安心して学校生活に取り組むことができる。	○個人面談・Hyper-QUの実施による生徒理解と個別支援の充実 ○SC・SSW・特別支援教育支援員・白鳳サポーターとの連携 ○通信制就学支援事業（学校内託児）の推進	○中学校からの引継ぎ関係機関との情報共有、合理的配慮申請による支援会議やHyper-QUを実施し生徒理解を深めた。 ○各課程会議での情報共有や左記の職員とのこまめな情報共有を行った。 ○通信制就学支援事業（学校内託児）は、前期6回託児児童延べ11人で生徒の評価も良好である。	B	○共有した情報をもとに、支援方針を引き続き検討していく。 ○中学校からの引継ぎ関係機関との情報共有、「合理的配慮」申請による支援会議やHyper-QUを活用し、個別支援をさらに充実させる。
2 心豊かに他と共生する態度の育成	○基本的な生活習慣の確立	○挨拶、言葉遣いなど基本的な生活習慣を身につける取組が必要である。	○すすんで挨拶をし、社会人として必要な言葉遣いができる。	○遅刻・欠席の防止指導 ○積極的な挨拶・声かけ ○社会人としてのマナー指導 ○健康管理指導の推進	○遅刻・欠席指導については、担任が家庭連絡をするなど丁寧な指導を行っている。 ○マナーアップ運動を2回実施した。乗車マナーは概ね良好であり、大半の生徒は気持ちの良い挨拶ができています。 ○マスクの着用、手指の消毒など感染症予防対策を徹底し、生徒も感染予防に対応した行動がとれている。	B	○生徒の情報共有を十分に行い、生徒一人一人の実情にあった指導を図る。 ○歩きスマホ、スマホ運転をしている生徒がおり、引き続き指導を徹底する。 ○引き続き感染症予防対策指導を徹底する。
	○自己理解・他者理解の促進	○人間関係力の育成をする環境づくりが継続的に必要である。	○生徒同士の信頼関係が醸成され、お互い尊重し合ったクラスが居心地の良い場となる。	○生徒理解のための教員研修の実施と充実 ○エンカウターの実施 ○性に関する指導や人権教育の充実	○エンカウターを実施し、居心地のよいクラス環境作り、人間関係作りを行った。 ○性に関する指導についての事業や生徒理解のための教員研修を実施した。	C	○生徒間の人間関係力を引き続き育成する。 ○今後もエンカウターを実施し、安心できる居場所としてのクラス作りを行う。 ○後期も引き続き人権教育LHRを行う。
	○通級による指導	○人との関わり方やコミュニケーションを特に苦手とする生徒がいる。	○対象となる生徒が自分自身を認めながら自分について理解し、自らの課題に適切に対応していくことができるようになる。	○生徒ひとりひとりの課題に応じたきめ細かい指導 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かす校内支援体制の推進	○「通級による指導」を今年度は定時制7人通信制1人が受講しており、生徒の満足度も高い。	B	○「通級による指導」に関する調査・研究をさらに進め、通級による指導を充実させる。 ○「通級による指導」で学んだことを通常の学級で活かすために、教職員への周知の在り方を検討する。
3 「ふるさと」とつながる心の育成	○体験活動とおとした社会性や自己有用感の醸成	○社会的体験を積み重ね、さらに社会性を高めることが必要である。	○諸活動において、自らすすんで行動し自信と責任を持って活動することができる。	○定通充実事業（チャレンジものづくり体験・テーブルマナー講習・乗馬体験・校外研修・蔵書点検ボランティア）の検証と発展 ○アルバイト、ボランティア活動、地域美化活動の推進	○チャレンジものづくり体験では、前期は里山自然体験活動・和傘作り・陶芸を行っている。 ○蔵書点検ボランティアには生徒延べ8人が参加した。 ○3年次生が地域美化活動を行った。 ○ボランティア活動は中止になることが多かった。	B	○今後も引き続き体験活動をおとして、生徒自ら進んで行動できるよう計画した事業を実施する。
	○地域との交流と協働	○地域との交流をおとし、地域社会や周りの環境に対する関心をさらに高める必要がある。	○地域社会や環境に関心をもち、異世代とのコミュニケーションができる。	○さつまいもの収穫・収穫・食を通した園児との交流 ○コミュニティ・スクールを活用した地域理解の深化 ○淀江地区との交流と地区活性化への貢献（銭太鼓・傘踊り体験、和傘作り、ヒガンバナの植栽活動、淀江さんご節保存会）	○前期計画した事業は行うことができ、地域の人々や文化に触れ、他者と関わりや地域とのつながりを学んだ。 ○学校運営協議会は荒天候のため6月は中止となった。	B	○地域との交流活動や貢献活動など、引き続き実施し、生徒の自己有用感の育成を図る。 ○第1回学校運営協議会を10月に行い、地域理解を深めていく。
4 社会的な自立に向けた支援	○キャリア教育の充実	○社会の変化に対応するため、進路意識を早期に向上させる必要がある。	○進路に対する意識付けと自分の適性にあった進路実現を達成することができる。	○就職・進学講演会の開催 ○個別面談や相談の実施 ○学年団・就職支援相談員と連携した進路指導 ○インターシップの推奨	○進路LHR、担任個別指導を多く実施し、細かく情報提供を行った。 ○定時制で夏期休業中に5度の出校日进行、3・4学年年団が就職指導を行った。生徒も精力的に取り組み、約8割が9月に内定を得た。	B	○就職支援相談員と教員の連携を深める。 ○進路未決定者へのきめ細かい指導を続ける。
	○「産業社会と人間」「総合的な探究・学習の時間」の充実	○社会的自立に向けて、さらに系統的な学習の確立が必要である。	○社会的自立に必要なスキルが、学年に応じて身につけている。	○系統的な学習プログラムの構築 ○学習成果発表会の実施 ○面接・着こなし講習会の実施	○自立に向けた活動を計画通り実施し、プレゼンテーションなど自己表現能力が身につけたり、卒業後の進路目標などを徐々に考えることができるようになってきている。 ○面接・着こなし講習会を行った。	B	○地域との交流・テーブルマナー講習会・学習成果発表会等を通して、自立に向けた活動を計画どおり実施をする。
	○関係機関との連携	○支援が必要と思われる生徒について、関係機関との連携が必要である。	○自分が必要な進路相談および対策や準備ができ、進路実現を図ることができる。	○上級学校・事業所見学の実施 ○ハローワーク、若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センターとの連携	○コロナ禍のため事業所見学を中止したが、上級学校見学は実施した。 ○通信制でハローワークの講演会を実施した。 ○ハローワークとの連携を密にして生徒指導にあたっている。	B	○今後も個々の生徒の進路希望に応じて外部との連携を密にしていく。
5 学校業務改善に向けての取組	○長時間勤務の解消	○学校行事などにより長時間勤務になる時期がある。	○月45時間、年360時間を超える時間外業務がない。	○衛生委員会での時間外労働時間集計結果の周知と超勤者への声かけ ○定時退勤日・定時退勤週の実施	○月45時間超勤勤務者は8月まで延べ5名（実質該当者1名）で、100時間を超える月が2月あった。 ○超勤者への声かけをしている。 ○定時退勤の周知を怠るときがあった。	D	○衛生委員会での情報共有を密にし、教職員全体で超勤を減らす取組をしていく。 ○定時退勤日・定期退勤週を設定し、周知する。
	○働く上で効率のよい職場環境づくり	○職員室など整理が必要などところもある。共有フォルダもデータが整理・整頓がいきとどいていない。	○快適な職場環境で業務が効率的にできる。	○校内安全点検の実施と破損箇所等の迅速な改善 ○教職員の整理・整頓意識の啓発 ○共有フォルダの整理 ○職場環境での感染予防対策の徹底	○7月に安全点検を実施し、危険箇所等の確認をした。 ○職員室は比較的整頓されている。 ○共有フォルダの一時保管場など整理が不十分なところがある。 ○日常的にマスク着用や校内消毒を行っている。	B	○後期も安全点検を実施する。 ○共有フォルダの整理を推進していく。 ○引き続き感染予防に努め、業務にあたる。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し

【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】